

平城京出土の最古の漆紙文書

—かつて発掘され、最近発見された—

最近、いわゆる漆紙文書の発見がつづいているが、最近、出土遺物の再整理にあたっていた奈良国立文化財研究所では、一九六六年に出土した漆紙文書を発見した。いまのところ、この漆紙文書は日本で最も古く地中から発見された例といってよいのであるが、出土地点は平城左京三条一坊の東北隅の宅地の土壤から出土した。この土壤からは、天平末年に比定される平城宮第Ⅲ期として編年される土器が併出している。その釈文は左記の通りであって、おそらく戸籍、ないしは計帳とみてよい。

鳴年九
浮浪和□

少年十
少子

安女年□

□

界線はなく、書風は大嶋郷の戸籍よりむしろ古風ではないかとさえみられる。この漆紙文書が戸籍であつたとすれば、作成されたのは天平末年より三〇年以上遡及することになつて、養老年間かそれ以前の造籍によるものということになる。もしそうであるとすれば、この漆紙文書は、他の遺跡での出土例からみて、現状では日本最古の漆紙文書であるといえるのかも知れない。
(K・K)

